

マレーシアにおけるLNG事業体制の完成について ～ 鉱区取得から17年間に亘ったプロジェクトが名実ともに完成～

記者各位

当社(社長:渡 文明)は、石油開発部門子会社である新日本石油開発株式会社(社長:甲斐 勝)を通じて、マレーシアにおける天然ガスの開発を推進してまいりましたが、この度、マレーシア・サラワク沖SK-8鉱区内のジンタン・ガス田において商業生産を開始することとなり、当社のマレーシアにおけるLNG事業の一貫操業体制が完成しましたのでお知らせいたします。

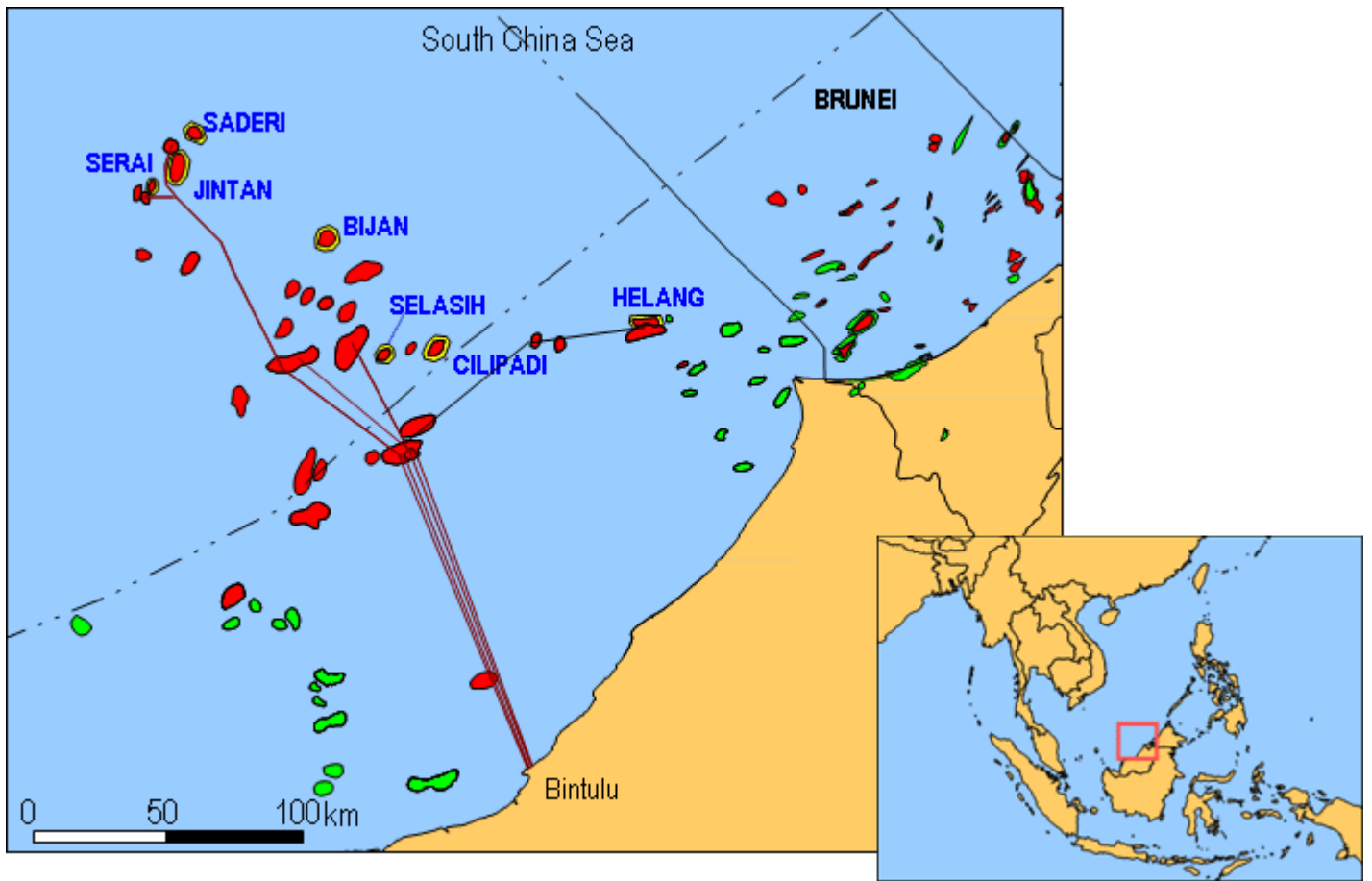
今回商業生産を開始したジンタン・ガス田は、当社グループのプロジェクト会社である日石サラワク石油開発株式会社が、SK-8鉱区のアペレーターであるロイヤル・ダッチ・シェル社とともに開発を行っていたもので、その生産量は、天然ガスが日量最大約1,400万立方メートル(原油換算:日量約8万バレル。設備の生産能力としては日量最大約1,900万立方メートル)、コンデンセートが日量最大約1万4千バレルとなる見込みです。すでに生産を開始している日石サラワク石油開発株式会社のセライ・ガス田(SK-8鉱区内で今年6月から商業生産開始)と、当社グループの日石マレーシア石油開発株式会社がアペレーターであるヘラン・ガス田(SK-8鉱区の近隣に位置するSK-10鉱区内で昨年11月から商業生産開始)の3つのガス田を合計すると、天然ガスは日量最大2,900万立方メートル(原油換算:日量約17万バレル)、コンデンセートは日量最大4万2千バレルの生産を見込んでいます。

また、当社グループでは、マレーシア国営石油会社ペトロナス等との合弁事業会社であるマレーシア LNGティガ社への出資を通じ、2003年に同国ピンツルにおいて天然ガスの液化プラントを立ち上げ、日本企業として初めて天然ガスの探鉱・開発から LNGの生産・液化・販売に至るまでの一貫操業体制を確立しておりましたが、この度のジンタン・ガス田の商業生産開始により、マレーシア LNGティガ社が 必要とする原料ガスの全量を当社グループのガス田から賄うことが可能となりましたので、名実ともに、1987年の鉱区取得から17年間に亘ったプロジェクトが完成に至ったものであります。マレーシア LNGティガ社の液化プラントは年間680万トンの LNG生産能力を有しておりますが、この度の原料ガス供給体制の整備に伴い、日本国内外の電力、ガス会社等に対して、より一層安定した体制の下で長期に亘りLNGを販売してまいります。

当社グループといたしましては、エネルギー需要の拡大が見込まれる東アジアにおいてLNGというクリーンなエネルギーの安定供給体制を構築できたことは、「総合エネルギー企業体制の確立」に向けた大きな前進であるとともに、地球環境への負荷の低減という点においても大きな意味を持つものと考えており、今後も本事業を、当社グループにおけるコアビジネスのひとつとして位置付け、さらなる事業拡大を目指してまいります。

なお、当社グループがマレーシアで取り組んでいる天然ガス開発事業およびLNG事業の概要はそれぞれ参考資料-1および参考資料-2のとおりであります。天然ガス開発事業のプロジェクト会社である日石マレーシア石油開発株式会社および日石サラワク石油開発株式会社は、ともに石油公団、帝国石油株式会社および三菱商事株式会社からの出資を受けております。

以上



SK-8鉦区図

● 参考資料-1: マレーシアLNGティガ・プロジェクト概要

- 新日石開発、シェルおよびチャリガリ(ペトロナスの開発子会社)等が沖合ガス田で天然ガスを生産。
- ペトロナスがガス田から輸出基地ピンツルまでのパイプラインを敷設・運営。パイプラインで輸送される原料ガスをピンツルのLNGプラントで液化し、需要家へ販売。
- 東北電力、日本のガス会社3社(東京ガス、東邦ガス、大阪ガス)、石油資源開発、東京電力、韓国ガス公社等とLNG売買契約(SPA)を締結済。

1. 上流部門について

	SK-8鉦区		SK-10鉦区	
権益保有者 (※オペレーター)	※シェル : 37.5% 日石サラワク : 37.5%→ チャリガリ : 25.0%	新日石開発 39.02% 石油公団 37.48% 帝国石油 15.00% 三菱商事 8.50%	※日石マレーシア : 75.0%→ チャリガリ : 25.0%	新日石開発 40.15% 石油公団 38.58% 帝国石油 15.00% 三菱商事 6.27%
開発対象ガス田	ジantan・ガス田	セライ・ガス田	ヘラン・ガス田	
開発開始時期	2002年1月	2002年12月	2000年4月	
生産開始時期	2004年8月 (今回)	2004年6月 (生産中)	2003年11月 (生産中)	
Pj会社 開発投資額	約92百万米ドル	約36百万米ドル	約360百万米ドル	
ガス生産量(予定)	日量1,400万m ³	日量800万m ³	日量700万m ³	

<参考>			
LNG換算	約320万トン/年320	約200万トン/年	約160万トン/年
原油換算	約8万バレル/日	約5万バレル/日	約4万バレル/日
コンデンセート 生産量 (予定)	約1万4千バレル/日	約8千バレル/日	約2万バレル/日

2. 液化プラント合弁会社

マレーシアLNGティガ社

LNG生産量	680万トン/年(340万トン/年×2系列)
生産開始時期	2003年3月
出資比率	ペトロナス60%、サラワク州政府10%、新日本石油10%、シェル15%、ダイヤモンド・ガス・ネザーランズ5%

3. マーケティングについて

2001年4月	東北電力とSPA締結(2005年度より20年間、最大90万トン/年)
2002年2月	ガス3社(東京ガス、東邦ガス、大阪ガス)とSPA締結(2004年度より20年間、最大160万トン/年)
2002年4月	石油資源開発とSPA締結(2002年度より20年間、最大48万トン/年)
2003年6月	東京電力とSPA締結(2003年度年間契約、実績47万トン/年)
2003年5月	韓国ガス公社とSPA締結(2003年度より7年間、最大200万トン/年)
2004年7月	東京電力と2年契約合意

参考資料-2: SK-8鉱区の概要

1. 沿革

1989年	7月 SK-8鉱区のPSC(生産分与契約)、JOA(共同操業契約)締結
1991年	5月 新日石開発(株)、SK-8鉱区にファームイン 8月 日石サラワク石油開発(株)設立 12月 SK-8鉱区の権益を新日石開発(株)から日石サラワク石油開発(株)へ譲渡
1992年	3月 ビジャン・ガス田発見 5月 ジンタン・ガス田発見
1993年	2月 セラシ・ガス田発見 4月 セライ・ガス田発見 12月 チリパディ・ガス田発見
1994年	6月 サデリ・ガス田発見
1995年	8月 ガス田の開発・生産に係る基本契約書締結
1999年	7月 既発見6ガス構造を除くSK-8鉱区を放棄 11月 三菱商事(株)が日石サラワク石油開発(株)の増資新株式を引き受け、株主(出資比率:10.0%=当時)として当該プロジェクトへ参入
2000年	11月 帝国石油(株)が日石サラワク石油開発(株)の増資新株式を引き受け、株主(出資比率:15.0%)として当該プロジェクトへ参入
2001年	6月 ジンタン・ガス田開発計画(FDP)、ペトロナス承認 8月 セライ・ガス田開発計画(FDP)、ペトロナス承認
2002年	1月 石油公団、ジンタン開発移行および債務保証採択承認 1月 国際協力銀行、ジンタン融資承認 12月 石油公団、セライ開発移行および債務保証採択承認

2003年

2月 国際協力銀行、セライ融資承認

2. ジンタン・ガス田について

- ・マレーシア国サラワク州ビンツルの北西約280km沖合いに位置するガス田
- ・水深約120-130m

3. 日石サラワク石油開発株式会社について

- 1 名称: 日石サラワク石油開発株式会社
(英文名)Nippon Oil Exploration (Sarawak) Limited
- 2 設立: 1991年8月6日
- 3 所在地: (本社)東京都港区西新橋一丁目3番12号
- 4 代表者: 代表取締役社長 甲斐 勝
- 5 資本金: 148億8千9百万円(2004年8月1日現在)
- 6 株主: 新日本石油開発株式会社(39.02%)、帝国石油株式会社(15.00%)、三菱商事株式会社(8.50%)、石油公団(37.48%)
- 7 事業目的: マレーシアおよびその周辺地域における石油、天然ガスその他鉱物資源の探鉱・開発、およびそれらの副産物の採取・加工・貯蔵・売買・輸送など。